

2023年9月10日

年間第23主日

菊地功大司教 メッセージ

わたしたちは、人生の旅路の中で、決して一人で置き去りにされることはありません。わたしたちは、「世の終わりまでともにいる」と約束された主が、常に歩みをともにしてくださいと信じています。

その主は、わたしたちを共同体へとつないでくださいました。実際に手をつないで歩んでいるわけではなく、実際の人生の旅路では、物理的に一人で歩みを進めることもあるでしょう。しかしわたしたちは、主の名の下に集められた共同体に、信仰の絆で常につながっています。

この3年間のコロナ禍の間、感染対策のために離ればなれにならざるを得ない事態が続いていたとき、わたしたちは普及したインターネットによって、互いにつながっているという感覚を持つことができました。わたしたちの信仰の絆は、インターネットの絆以上の存在です。その絆は、神の与えた掟によって結び合わされているからです。パウロはローマ人の手紙に、「どんな掟があっても、隣人を自分のように愛しなさいという言葉に要約されます」と記しています。その相互の愛の絆によって、わたしたちは物理的に離れていてもつながっており、世界中の兄弟姉妹とともに、一つの共同体を作り上げています。

主の名によって集められたその共同体には、主御自身が常に存在されます。「二人または三人がわたしの名によって集まる場所には、わたしもその中にいるのである」。

この主御自身の存在によって結び合わされたわたしたちは、感謝の祭儀に与ることで、朗読される御言葉のうちに現存される主と出会い、ご聖体の秘跡のうちに現存される主をいただきます。

わたしたちを結び合わせる掟の中心にある「隣人愛」とは一体何なのでしょう。「自分

のように愛する」』とは一体どういうことでしょうか。それはただひたするに優しくすることでもなければ、自分の思いを押しつけることでもありません。それは、自分自身が生きて行くことを肯定しているのと同じように、交わる他者がいのちを生きていくことを肯定する態度であります。生きるための希望は、互いに支え合う交わりの絆を確認するところから生み出されます。すなわち連帯こそが、生きる希望を生み出します。そこに隣人愛の根本があります。

常にともにいてくださる主イエスこそ、わたしたちがいのちを生きようとする思いを肯定し、支えてくださる方です。わたしたちがいのちを豊かに生きる希望を生み出すことができるようにと、道とともに歩まれる方です。その愛をわたしたちは心にいただき、主と一致しながら、さらに愛の絆を多くの人へと広げて参りましょう。